JAIST Repository

https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	人と組織を活性化して未来を創りだす PFU未来塾
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 10
Issue Date	2008-03
Туре	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4862
Rights	
Description	



- 今後の課題についてお聞かせください。

個の人間力の強化が組織の改革につながるには今 しばらく時間がかかるでしょうし、開発の現場では改 革人材もまだまだ少数派です。

IT業界は変化が目覚しく、技術、製品、ビジネスのやり方は日々進化しています。こうした業界で生き残り、成長していくためには、変化についていける組織になっていく必要があります。我々はそのための役割を未来塾が担っていると自負していますし、塾

活動を続けていくことで、組織は変わっていくと信じています。

未来塾を運営する立場にある我々も、仲間が増え、いろいろな気づきを得て、やるべきことが見えてきました。未来塾を通して人と組織を活性化するとともに、この活動をビジネスにつなげたり、企業イメージにつなげるなど、目に見える貢献や成果を出していきたいとも考えています。

■ 今後の展望

藤教授をはじめ JAIST 関係者と連携し、これまで 27 名の修了生を輩出した PFU 未来塾は、2008年度 3 期目を迎え、かほく市の本社に加えて東京本社でも受講生を募り、30 名の規模で運営されています。改革の輪が全社的に広がり、定着することが期待されます。今後は年齢別、等級別、あるいは語学など各種教育カリキュラムを企画実施している子会社 「PFU ヒューマンデザイン (株)」との連携も強化し、より厚みのある人間力強化の場を提供していきます。

講師 Discription Discription

PFU 未来塾推進体制

21世紀 COE プログラム

「知識科学に基づく科学技術の創造亡実践」亡は?

「21世紀 COE ブログラム」とは、日本に世界最高水準の研究教育拠点(center of excellence)を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図るため、平成 14年度から文部科学省が実施している事業。「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」は、本学で採択された最初の COE ブログラムであり、平成 15年度から始まって今年が5年目、すなわち最終年度にあたる。本ブログラムでは先端科学技術の研究の場、さらに社会のあらゆる状況において、イノベーションを起こすための知識創造ブロセスの研究、そして、それを担う人材としての「知のコーディネータ」「知のクリエータ」育成に取り組んでいる。文理融合を、マテリアルサイエンス研究科(理系)と知識科学研究科(広い意味での文系)の連携ブロジェクトという形で実践している点が、本 COE の大きな特色である。

JRIST 社会イノベーション・シリーズ No.10

発 行 2008年3月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター 〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 知識科学研究科棟 II 7 階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省 21 世紀 COE プログラム 「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の 助成を得て発行しております。



北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 10

人と組織を割進化して未来を割りだす



日々忙しい日本のビジネスマン&ビジネスウーマン。目の前にある業務だけこなせばいいのか、それとも5年先、10年先の未来を考えて動くのか。どちらが良いのかは明らかだけれど、実践に移すためには、きっかけになる "気づき" と確かな "人間力" が必要です。

JAISTが開講する「いしかわ MOT スクール」で学ん だ企業人が社内で立ち上げた「PFU 未来塾」は、気づき と人間力強化のための場です。未来のための活動が、 始まっています。 No. 1 🗖

INNOVATION BY PFU MIRAIJYUKU

株式会社PFU(社長:輪島藤夫、本社:石川県かほく市)は、世界シェアNo.1の「ドキュメントスキャナ」、IT ベンダーとして蓄積した技術を結集させた「ProDeS (開発製造サービス)」、そして IT インフラ環境開発による「ソリューション」を三本柱として事業を展開しています。特にイメージスキャナビジネスについては約20年の実績を持ち、そのラインアップに毎年新機種を投入するなど、常に新しい技術を開拓し続けています。

確かな技術力と最先端の開発環境を持つ PFU が、2010 年の創業 50 周年に向けて力を入れているのが人と組織の活性化です。同社は JAIST が開講する 「いしかわ MOT スクール」に毎年社員を派遣し、MOT 改革の研究と実践に取り組んでいます。 さらに MOT スクール修了生が社内で改革のすそ野を広げようと 「PFU 未来塾」 と銘打った活動を展開しています。未来塾を含めた全社の改革活動を支援するActive-V 推進室室長の山口さんと、いしかわ MOT スクールに学び、未来塾の講師を務める石黒さんにお話をうかがいました。

Interview

ニュービジネス推進統括部 Active-V 推進室 室長

山口 正毅 さん



ソフト・アプライアンスグループ アプライアンスソフトウェア事業部 担当部長

石黒 渉 さん



- PFU 未来麹が誕生した背景を教えてください。

当社ではいしかわ MOT スクールが開講された年から 毎年社員を 3 名ずつ派遣しており、それぞれが MOT スクールで学んだことを現場に持ち帰って改善・改革を 実践しています。その延長線上で、MOT スクール修了 生が連携して何か会社に貢献できないかという意見が 出てきました。修了生同士で議論を重ねる中で、当社の "ありたい姿" は、社員全員が改革人材になることだということが見えてきて、ではそのための人づくり風土づく りをしようではないかと、2006 年度に 10 名の受講者 を迎えて未来塾が発足しました。

具体的には月に一度、金曜日の午後に講義やグループワークを行っています。受講者は全6回の活動を通してMOTやJAIST知識科学研究科の近藤教授が提唱する「四画面思考法」について理解を深め、「自分ごと・四画面・改革の輪」の改革三原則に基づき、自分自身の四画面を作成していきます。完成した四画面はファイナルプレゼンテーションで発表しますが、そこからが本当の

スタートで、これを現場で実践に移していくことになります。グループワークには JAIST の研究員の方に入ってもらっていますし、近藤教授には第 1 回目にセミナーを行ってもらうほか、ファイナルプレゼンテーションにも参加していただいており、今度ともこうした産学の連携を継続していきたいと考えています。



PFU 未来塾におけるグループワーク

- ごのような方が受講されているのですか?

開発系の部署のマネージャクラスの社員です。いしかわ MOT スクールの特徴は「技術力と人間力の二刀流」で改革を進めていくという点にあります。当社は「技術と信頼の PFU」をスローガンとして掲げており、ものづくりの技術については確かな自信があります。一方で人間力についてどうかと言いますと、塾の発足に先立って行った

調査では、日々の仕事に追われている社員が多く、疲弊感ややらされ感が漂っているという現状がありました。 こうした状況を改善したいということで、トップダウンではなく、ある程度ボトムアップでやろうということで、 ミドル層の社員を対象にして、人間力を高めるための後押しをしています。

- 受酬生にはどのようなことを期待していらっしゃいますか?

従業員のやる気が高くなければ、良い製品は生まれないし、成長も長続きしないというのが、当社の社長の信念です。そのため、社員ひとりひとりが活き活きと主体的に行動できる組織風土づくりを目標に、さまざまな取り組みを全社的に展開しています。その中枢を担う「Active-V推進室」では、未来塾を含めて5つの枠組みを策定し、全社の改革活動を支援しています。

「Rising-V」は、社員の試作品の作製を支援する制

■ Active-V 活動

「Rising-V」夢やアイデア実現の場

「知空間 | 組織を超えて知を結集する場

「見える化」コミュニケーション活性化の場

「アイデア・スナップ」改善を実践する場

「PFU 未来塾」人間力を学び成長する場

度で、夢やアイデアを実現する場であると言えます。「知空間」はナレッジマネジメントの取り組みで、部署を超えた知識融合の場です。「見える化」はコミュニケーション促進のための活動で、開発プロセスに携わるメンバー全員が参加して行われます。「アイデア・スナップ」は業務改善への取り組みで、個人の事例を広報することで、横展開を可能にしたり、さらに新たなアイデアを加えていく仕組みです。

これらに並ぶかたちで「PFU 未来塾」が位置づけられています。未来塾で"気づき"を得た社員が、社内に整備されているフレームワークを活用してさらに人間力を高め、改革を進めていく、というのが我々の狙いとするところです。

未来塾自体の活動は半年で終わりますが、改革実践は 未来に向けて継続していかなければなりません。その ため我々は未来塾の修了生のフォローアップにも力を 入れています。いしかわ MOT スクールの修了生が シンジケート活動を行っていますが、未来塾も独自に 修了生によるシンジケート活動を行っていて、各自が現場 の課題を持ち寄り、共有し、議論し、アドバイスし合う場 を持っています。

- MOT 改革をキーワードに異業種交流もされているそうですね。

未来塾では通常の活動のほか、「芳珠記念病院 和楽仁塾」や「のと・七尾人間塾」など、いしかわMOTスクールや MOT シンジケートの仲間との交流会も行っています。それ以外でも、未来塾の活動をぜひ見せてほしいという団体の視察を迎えたこともあります。実際、社員が社外の人の話を聞く機会は非常に少ないので、こうした交流はとても良い刺激になっていますし、たくさんの気づきをもたらしてくれています。



改革を実践する PFU 未来塾参加者と近藤教授